

令和 7 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

・答えのない時代を幸せに生きることを目標に、自主自立の精神を培い、違いを認め合い他者を思いやる豊かな人間性と生きる力を身につけ、 【 変化の大きな社会に対して貢献できる生徒 】を育てる。 ・「学習」「学校行事」「課題活動」にバランスよく取り組む機会を設け、自己肯定感と他者尊重の姿勢や粘り強く課題に取り組む姿勢を育むとともに、【 主体的に考え行動できる生徒 】の育成をめざす。 ・ICT 等を活用した通常授業、地域・大学・企業・姉妹校等との連携や探究活動を通じて、主体的・対話的かつ【 創造的な学び 】を実践する。 ・多様な価値観を受け入れ、チーム（組織）で目標達成するための行動力やコミュニケーション力、規範意識を育成する。
--

2 中期的目標

1 「主体的・対話的で深い学び」を実現する。授業形態の工夫や ICT 機器の効果的活用を行い、興味・関心がもてる授業、知識・技能が身についたと感じる授業を通して、生きて働く「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力」の育成をめざす。
（１）自ら学ぶ姿勢を育てる。そのために、一斉学習・個別学習・協働学習を組み合わせた授業形態の工夫を推進し、生徒の授業等への参加意欲を向上させる。
※教員の授業力向上と生徒の主体性向上に取り組み、授業への主体的な参加を通し、授業満足度を向上させる。
吹田東高校生の身に着けたい非認知能力「すいひの力」を意識した授業づくりを実行する。

すすむ力	○自分から新しいことにすすんで挑戦する	○困難なことにも粘り強く推しすすみ続ける
いかしあう力	○互いの違いをわかり合う	○他者と助け合う
ひらく力（21 世紀型リーダーシップ）	○目標設定・共有	○相互支援
		○率先垂範

その結果、生徒向け学校教育自己診断における「全体として授業に満足している」の肯定的回答（R4 77.0%、R5 74.3%、R6 84.5%）を令和9年度までに85%にする。
（２）資質・能力の育成につながるよう多面的・多角的な学習評価として、観点別学習状況の評価の確実な実施と、指導と評価の一体化の観点からの授業改善を推進する。
（３）各教員が ICT 活用や生成 AI 活用技術を向上させ、生徒の1人1台端末を効果的に活用しながら学びの深化につながる効果的な授業作りを実践する。授業中における生徒1人1台端末活用率（R4 35%、R5 45%、R6 45%）を令和9年度までに80%にする。

2 確かな学力や高い志等をもてる学習支援・進路保障
生徒に応じた学習支援を行い、学習の成果を実感させ、進路相談やカウンセリングを行いながら、進路について自ら目標を立て実現に向かう力を育成する。大学との連携や外部資源の積極的な活用を行う。
（１）生徒が目標を持った進路実現をめざし、進学実績等で達成感と目標に向かう力を育む。国公立大学、難関私立大学等希望進路の実現を図る
（２）教科として進学講習の実施について年間計画を策定する。土曜講習の一環として青葉丘セミナー（大阪大学との連携セミナー:大阪大学生が補助で入り込み）を設定し、自学自習の助けとする（1、2年）。
※生徒向け学校教育自己診断における「先生の講習は役に立った。」の肯定的回答90%以上を維持する。（R4 91.5%、R5 96.2%、R6 95.1%）
（３）外部テスト等の活用を行う。全国レベルの模擬試験を受検させ、結果を有効活用し、新しい大学入試制度に合う取組みを検討して進路指導に役立てる。
※生徒が自己を知り、学習方法を改善し、将来の進路を選択決定する能力を養う。
（４）S 講座（外部講師が本校で講習をする実力養成講習）を実施し、低学年より部活動との両立を図りつつ実力を養成し、生徒のニーズに応じた受験対応を行う。
（５）成績不振者に対しても、平日や土曜に指名補習を教科で実施する。
※成績不振による原級留置者0名を目標とする。
（６）図書室や学習スペースの利用促進を図る。

3 豊かでたくましい人間性をはぐくむ。生徒が自信をもって社会に巣立つ学校づくり、自尊感情の育成・自己肯定感の醸成
（１）基本的生活習慣を確立させ、教職員と生徒及び生徒相互の信頼関係を深めるとともに、地域や学校の実情及び生徒の心身の発達段階や特性等を考慮した生徒指導をおこなう。あいさつ指導、遅刻指導（予鈴5分前登校）、ベル着指導（チャイムと同時に授業開始）、言葉遣い・身だしなみ指導をおこなう。
※積極的にあいさつを行う校風を醸成する。
（２）グローバル化・情報化が加速度的に進展する社会で通用する人材を育成するため、3年間のLHRや総合的な探究の時間、国際理解教育を推進しながら、SDGsの視点も踏まえた問題発見能力・解決能力や思考力・判断力・表現力を育成する。組織を目標に導くために取る全員発揮型のリーダーシップの養成や、実社会や実生活と自己の関わりから問いを見出す力を付け、自己実現につなげる。
（３）健康を適切に管理し、改善するための資質や能力を育成する。教育相談の充実と、課題を抱える生徒の個別の支援教育について、校内体制を整備するとともにきめ細かな運用を実施する。
※「担任の先生は気軽に相談できる。」の肯定的回答率85%以上(R4 78.1%、R5 83.1%、R6 86.5%)ならびに、「担任の先生以外に、気軽に相談できる先生がいる。」の肯定的回答率70%(R4 66.4%、R5 66.9%、R6 72.7%)の維持をめざす。
（４）人権尊重教育の推進やソーシャルスキルトレーニングを通して、自他の権利を尊重する態度をはぐくむ。
（５）学校生活を快適に過ごせるよう、校舎の教室等の施設設備の充実と美化を図る。
（６）生徒による学校づくりを推進し、一人ひとりの生徒が活躍できる場面をつくる。
・学校行事、学年行事、部活動、LHR を活用し、特別活動を活性化する。
・生徒委員会活動等を活性化する。
※生徒向け学校教育自己診断における「体育祭、文化祭などの生徒会活動やクラス活動に積極的に参加している」の肯定的回答について 85%以上を維持する。（R4 85.8%、R5 86.7%、R6 88.7%）

4 開かれた魅力ある学校づくりと広報活動等の充実
（１）開かれた学校づくりとして、学校行事等を公式 SNS やホームページを通じて公開する。
（２）魅力ある学校づくりとして地域及び地元幼小中学校との連携や、大学・企業・NPO 等との連携を進め、多様な経験や専門性を持った人材を活用する。
（３）本校の特色を活発に広報等する。
・公式 SNS、ホームページ、本校の学校紹介プレゼンテーション等を適宜更新するとともに、広報活動に力を入れる。保護者への情報共有を強化する。

5 人材育成への取組み
（１）GUTS(若手塾)の取組みで経験年数の少ない教員の育成に力を入れる。
（２）経験豊かな教員の知識等を活かした教職員研修を計画的に実施し、ミドルリーダーの育成を図る。
（３）働き方改革の推進を行い、教職員同士の対話を深める時間、授業向上に取り組む時間や、生徒と向き合う時間を増やす。（時間外在校等時間の減少）

6 個人情報等の適正な管理
（１）全ての教職員が個人情報を取り扱う者としての責任を自覚し、個人情報管理ルールを徹底する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 7 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
・「吹田東高校に進学してよかった」の肯定的回答率が、生徒は 91.1%（昨	第 1 回（7 / 7）

府立吹田東高等学校

年度 88.7%) に、保護者は 94.5% (昨年度 90.2%) に上昇 ・生徒指導に関する肯定的回答率も、生徒は 79.9% (昨年度 75.9%) に、保護者は 73.6% (昨年度 72.7%) に上昇 ・生徒対象の「学校行事が充実するように工夫されている」「生徒会活動やクラス活動に積極的に参加」など行事に関する肯定的回答率も上昇 ・「授業」についての生徒の満足度は 85.9% (昨年度 84.5%) に上昇 ・進路指導の生徒の肯定的回答率は 89.7% (昨年度 92.8%) に減少したものの、高い数値を維持している。 ・1人1台端末は多くの授業で有効的に活用され、88.7% (昨年度 84.3%) の生徒が使い方に満足している。 ・Web ページの閲覧については、公式 SNS の積極的な更新により特に生徒の数値が上昇、59.8% (昨年度 49.8%) ・教職員対象は、全ての項目において肯定的回答率が増加 「よくあてはまる」の値についても 19 項目中、18 項目が上昇	○学校経営計画について ・昨年度第 3 回協議会において承認いただいた経営計画について、承認後の変更点について報告 ・令和 10 年度以降の公立高等学校入学者選抜に係る学校特色枠について意見聴取 [委員意見] 主体的に考え行動できる生徒の育成という特色を出すならば、中学校での取組みを調査書、エントリーシートで評価できればよいのでは。 第 2 回 (12/4) ○第 1 回授業アンケートの集計結果について ・全体平均、興味・関心 (生徒の意識 1)、知識・技能 (生徒の意識 2) の 3 項目について、昨年度の数値から、さらに上昇 [委員意見] 教科別において、国語科の伸びも見られるが、その要因は。 [回答] I C T 機器の効果的な活用であると考えている。 ○学校広報について ・第 1 回オープンスクール参加者のアンケート結果は概ね肯定的回答を得ている。 [委員意見] 受入れ人数を増やすことを検討してはどうか。 第 3 回 (2/5) ○第 2 回授業アンケートの集計結果について ・第 1 回アンケートと比較し、低下傾向となったものの、昨年度よりも高い数値 ○授業力向上委員会、就学保障委員会等、今年度の取組みについて報告 [委員意見] 「すいひの力」の実践に係る評価の取組みについて [回答] 授業における振り返りを行っている教科はあるが、今後、生徒自身が評価を行えるよう検討 ○学校教育自己診断および令和 7 年度学校経営計画の達成状況について ・学校教育自己診断は、生徒・保護者・教職員、全ての対象において、多くの項目で肯定的な回答が上昇、学校経営計画についても、概ね目標を達成していることを報告 [委員意見] 家庭学習時間が減少していることは課題認識 ○令和 8 年度学校経営計画 (案) について ・めざす学校像および中期的目標について承認
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6 年度値]	自己評価
1 学習指導要領による、「主体的・対話的で深い学び」の実践	授業形態の工夫や ICT 機器の効果的活用を行い、生きて働く「知識・技能」の習得、「思考・判断・表現力」育成 (1) 自ら学ぶ姿勢を育てる。一斉・個別・協働学習を組み合わせた授業形態の工夫、生徒の参加意欲を向上。 (2) 資質・能力の育成多面的・多角的な学習評価として、観点別学習状況評価の実施、指導と評価の一体化の観点からの授業改善 (3) 1人1台端末の活用と教員の ICT 技術の向上	(1) 年度初めに、科目毎に作成したシラバスを提示し、内容、評価の仕方等を理解させ、学習に生かす。 ・授業形態の工夫や、ICT の効果的な活用で、生徒の授業等への参加意欲を向上させる。 ・授業改善委員会を中心に、授業アンケート、授業観察シートを用いて授業改善活動を活性化する。 (2) 学習指導要領の確実な実施及び各教科科目の観点別学習状況評価の検証を行い、指導と評価の一体化の観点からの授業改善サイクルを検証する。 (3) 1人1台端末を活用した公開授業を、公開授業週間に全教科で実施する。ICT やグループウェアを活用した教材開発とその共有化を進め、授業で活用する。 ・教員同士での授業見学を活性化し、ICT や AI の利用方法を含め、生徒の能力を伸ばすアイデアの共有を促進する。	(1) 授業アンケート平均3.3以上[3.39]、興味・関心、知識・技能の全体平均3.2以上[3.31]の維持。 ・教員相互の授業見学、授業観察シートの提出率95%以上 [95%] ・「自分自身では1人1台端末の使い方に満足している。」の生徒の肯定的回答率80%以上の維持 [84.3%] (2) 学習指導要領によるカリキュラム編成に基づき、パフォーマンス課題や観点別学習状況評価を全教科で確実に実施する。授業改善委員会を活性化し、授業評価に関する勉強会の実施、ならびに教職員研修1回実施。 (3) タブレットやグループウェアを活用した授業に関する教職員研修1回実施 ・テーマを定めた公開授業ならびに研究会を2回以上行う。	(1) 授業アンケート結果は高い水準で維持。全体平均 3.42、興味・関心、知識・技能の平均 3.34 【◎】 ・教員相互の授業見学後、授業観察シートの提出率→100% 【◎】 ・1人1台端末への満足度88.7% 【◎】 (2) 授業力向上委員会による課題の整理と授業評価に関する活動の活性化、および全体での勉強会を実施。有志による勉強会を2回実施し、校内の取組み(生徒のやる気を伸ばす授業、教員間のWeb会議システムの活用)を進めている。また有志向け研修を1回実施 【○】 (3) ノーコードアプリ開発に関する教職員(有志)研修を1回実施 【○】 ・1人1台端末活用に関する公開授業を11回、研究討議を2回実施 【○】

府立吹田東高等学校

2 確かな学力、高い志をもてる学習支援	生徒に応じた学習支援を行い、学習の成果を実感させ、進路相談やカウンセリングを行いながら、進路について自ら目標を立て実現に向かう力を育成。大学との連携や外部資源の積極的な活用。			
	(1)進学実績等で達成感を維持させる	(1)進学実績等で達成目標を設定する。3年間の進路指導計画を活用し、自宅での学習習慣の確立や講習への参加促進のため保護者との連携を強化する。 ・生徒の正しい職業観を育成と社会で生きる力を養成するため、社会人講師による進路講演会を実施する。	(1)国公立大学・関関同立・産近甲龍の現役実合格者数81名以上（8学級）[79名（8学級）] ・社会人講師による進路講演会の実施（年間2回） ・進路情報への満足度88%以上の維持[92.8%]	(1)国公立大・難関私立大（関関同立・産近甲龍）現役合格者数252/310名（R6 178/307名）／同現役実合格者数101/310名（R6 79/307名）【◎】 ・社会人講師による進路講演会（11月）、教育産業（2月）実施【○】 ・「高校は進路に関する情報をよく知らせてくれる」89.7%【○】
	(2)教科等での講習、自学自習の支援	(2)年間を通して土曜日、平日放課後、早朝の講習と夏期講習を実施する。	(2)「先生の講習は役に立った。」の肯定的回答90%以上[95.1%] ・青葉丘セミナー（大阪大学との連携セミナー）を年間6回設定する。「青葉丘セミナーは役に立った。」の肯定的回答90%以上[96.8%]	(2)「先生の講習は役に立った。」の肯定的回答97.6%【◎】 ・青葉丘セミナー5回実施（大学の都合により5回で設定）「青葉丘セミナーは役に立った。」の肯定的回答84.1%【△】
	(3)外部テスト等の活用、学力向上と資格取得	(3)外部テスト活用を推進することにより、資格取得と学力向上への意欲喚起を行う。模試を全員受検し、生徒の進路意識を高め、結果を活用した組織的な指導を行う。 ・進路状況や外部テストの結果を分析し、情報交換会を行う。	(3)外部模試の全員受検と外部テストの活用。外部テストの結果分析会を実施（年間2回） ・外部の英語検定の1・2年生全員受験	(3)外部テストの結果分析会を担当向け1回、進路部長向け1回実施【○】 ・1月に英検1・2年生全員受験【○】
	(4)S講座による部活動との両立を図りながらの実力養成と受験対応	(4)S講座は外部講師と協力して指導方針を策定し、効果を高める。講習参加者が最後まで継続できるようにする。	(4)S講座受講者数180名以上[のべ251名、実数192名]、出席率75%以上[85.7%]	(4)S講座受講者数3学年計のべ284名、実数208名【○】 S講座の出席率81.9%【○】
	(5)成績不振者に対する指名補習の実施	(5)指名補習を実施し、基礎的な力をつけさせ、単位の修得を図る。 ・単位修得に向けて週休日の家庭学習の定着を図る。成績不振者は宿題等個別指導をする。	(5)成績不振による原級留置者0人 ・家庭学習時間の増加[平日0.83時間/休日1.26時間]	(5)原級留置者0名【○】 ・家庭学習時間 平日0.75時間/休日1.20時間【△】
	(6)図書室、自習室等の利用促進	(6)図書室の蔵書を使って生徒が調べ・学ぶ授業を増やす。 ・生徒の心の糧となる読書をすすめる。自習室・少人数学習スペースの利用促進を図る。	(6)授業・総合の時間等での図書室利用10回以上 ・生徒図書委員による図書館便りの発行5回 ・貸出冊数の増[貸出冊数1159冊]	(6)授業・総合探究での図書室利用10回以上実施【○】 ・図書館便り5回発行【○】 ・貸出冊数1186冊【○】

府立吹田東高等学校

生徒が自信を持って社会に巣立つ学校づくり・自尊感情の育成・自己肯定感の醸成	(1) 基本的生活習慣の確立、生徒相互が気持ちを伝え合える環境づくり	(1) あいさつ、声掛けを行い、遅刻指導、身だしなみ指導、ベル着指導を行う。遅刻者に対しては、生徒の実情を踏まえ段階的な指導を行う。服装指導の高い評価を継続する取組みを推進する。	(1) 年間遅刻数一人平均1.3回以下[1.78回]。 ・身だしなみ強化週間・あいさつ強化週間の設置。	(1) 遅刻数一人平均 1.59 回 (1.78 回/R6) (配慮要する生徒を除外した回数) 【△】 ・身だしなみの大切さを促す、声かけ運動を 11 月に実施 ・6 月と 10 月に生徒会執行部・風紀委員によるあいさつ強化週間を実施 (2 回) 【○】 (2) 総合探究での発表・制作各学年 1 回以上実施 【○】 ・2 年生は校外にて大学別ガイダンス、1 年生は校内にて分野別ガイダンスを実施 【○】 ・1 年生における「リーダーシップ研修」を甲南女子大学ならびに連携企業と、2 年生総合探究を 6 企業・2 NPO・1 大学と連携し、昨年度に続き、三菱みらい育成財団の助成校を継続 【◎】 ・夏季に語学研修として、オーストラリアへのスタディーツアーを実施 (13 名参加)、12 月には台湾の姉妹校とのオンライン国際交流を実施 (22 名参加) 3 月に台湾の姉妹校と現地で交流 (20 名参加) 【○】
	(2) 社会で通用する人材を育成するため LHR や総合的な探究の時間の有効活用・国際理解教育の推進	(2) LHR や総合的な探究の時間で、社会の中で主体的に生き抜いていくため自己のあり方・生き方について考察を深め、学ぶ意欲の向上、そして自己実現につなげる探究学習に取り組む。国際理解教育の一環として、語学研修やオンラインを使用した国際交流を実施し、その成果を共有化する。	(2) LHRや総合的な探究の時間での発表や制作を各学年 1 回以上行う。 ・キャリア教育としての大学連携ガイダンス実施 ・総合的な探究の時間に「21 世紀型リーダーシップ研修」、ならびに企業やNPOと連携した探究活動を取り入れる。また、ノーコードまたはローコードツールによる簡易アプリの開発や、3 D プリンターによる模型の試作することを目標に探究活動を行う ・語学研修や海外との国際交流を 2 回以上実施。延べ参加者40名以上[40名参加]。	(3) 個別の保健指導・歯科の追跡指導を 3 回実施、また、希望者向け歯科個別相談を 12 月に実施 【○】 ・担任への相談しやすさ 85.8%、 ・担任外への相談しやすさ 75.9% 【◎】
	(3) 健康を適切に管理し、改善するための資質や能力の育成 教育相談の充実と、課題を抱える生徒の個別の支援教育充実	(3) 健康診断を、「健康教育の場」と捉え、事前事後指導を充実させる。教育相談について生徒に周知し、相談しやすい雰囲気をつくる。 ・定期的な教育相談委員会の開催により、支援の必要な生徒を早期に把握し、適切な支援を行う。 ・高校生活支援カードの有効利用。必要に応じて関係機関や専門家との連携を図る。	(3) 健康診断の結果から個別の保健指導を年 3 回行う。歯科の保健指導を年 3 回以上実施する。 ・「担任に気軽に相談できる」の肯定的回答率80%以上[86.5%]、ならびに「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」の肯定的回答率70%以上[72.7%]を維持する。	(4) 人権 HR を 1、2 年生は各 3 回、3 年生は 2 回実施 ・教職員人権研修 2 回実施 (うち 1 回は外部講師によるいじめ対応に関する研修: アンケート回答者 23 名の満足度は 100%) 【◎】 ・SST 講座は 1 年生総合探究時間内で 1 回実施 【○】
	(4) 人権尊重教育の推進やソーシャルスキルトレーニングの実施	(4) 3 年間を通じた人権尊重の取組み (LHR) を行う。 ・養護教諭による SST (ソーシャルスキルトレーニング) 講座を実施し、自己を知り他者を尊重し、人権意識を高める	(4) 人権HRを各学年 3 回 (3 年生は 2 回) 以上、うち 1 度は成年年齢引き下げによる責任と義務を学ぶ。 ・教職員向け研修を年間 1 回以上実施、満足度80%以上[93.2%]。 ・SST講座を総合的な探究の時間内に行う。	(5) 生徒保健委員会による美化活動を年間 3 回以上実施[8 回]。
	(5) 教室等の施設設備の充実と美化	(5) 定期的な大清掃と学校行事前の一斉清掃に取り組み、快適な学習環境を整える。清掃用具の整備を行い、生徒主体による美化意識の向上と美化活動を充実し、美しい校舎を保つ。	(5) 生徒保健委員会による美化活動を年間 3 回以上実施[8 回]。	(6) クラス活動への参加 肯定的回答 89.2% 【◎】 ・新入生の部活動加入率 84.4% 【○】 ・ルールメイキング活動において、食堂の予約フォームを実現。教育センターの研究フォーラムで事例発表。オンラインめやす箱の設置により、生徒からの意見集約が容易にできるようになった。 【○】 ・クラブ代表者会議 11 回実施 【○】
	(6) 一人ひとりの生徒が活躍できる場面をつくる。・生徒委員会活動等の活性化	(6) 学習活動を中心にすえた上で、学校行事・部活動に組みこめることで企画・運営力を育成し、達成感を持たせる。 ・クラブ代表者会議や総合的な探究の時間・LHR を通じて、生徒のリーダーシップを育てるとともに、部活動を活性化する。 ・生徒会を中心として、生徒委員会活動を活性化する。	(6) 「体育祭、文化祭などの生徒会活動やクラス活動に積極的に参加している」の肯定的回答率の維持[88.7%] ・新入生の部活動加入率75%以上の維持[76.7%] ・生徒会執行部による生徒アンケートを活用し「生徒による学校づくり」の推進。生徒総会の実施やルールメイキング活動の実施。 ・クラブ代表者会議を 8 回以上実施	

府立吹田東高等学校

4 開 か れ た 魅 力 あ る 学 校 づ く り と 広 報 活 動 等 の 充 実	「広報部」を中心とした開かれた学校づくり (1) 学校行事等の公開	(1) 体育祭、文化祭等学校行事の公開・クリーンキャンペーン(地域清掃活動)などで、地域連携の活性化を図る。	(1) 体育祭、文化祭等行事への地域からの参加人数の増加[15名] ・地域教育協議会等への参加の継続[1回]。 ・クリーンキャンペーンの活性化[参加人数100名以上]。	(1) 昨年に引き続きSNSによる学校行事の公開、発信を積極的に行った。文化祭の地域からの参加10名【△】 ・地域教育協議会等へ参加【○】 ・クリーンキャンペーンの参加、地域から約50名、本校から約160名参加。【◎】
	(2) 魅力ある学校づくりとして地域及び地元幼小中学校との連携や、大学・企業・NPO等との連携を進め、多様な経験や専門性を持った人材を活用する	(2) 大阪大学・甲南女子大学等との連携や、ルールメイキングや「総合的な探究の時間」における多様な連携を継続する。 ・地域教育協議会等に参加し、その行事への生徒の参加を促す。 ・SNS等を利用し、上記連携先などとのコラボを実施	(2) R6年度までの連携先(大阪大学・甲南女子大学・幼稚園・こども園や、「総合的な探究の時間」で連携している企業・NPO)との交流継続[16団体] ・地域の公民館行事やお祭りへの参加(科学部による科学教室、美術部の絵の展示等)[3回] ・SNSで連携を公開。またはコラボ動画作成。	(2) ・大阪大学・甲南女子大学・幼稚園・こども園との交流を継続実施、大阪成蹊大学と新規連携。総合探究で7団体と連携継続、4団体と新規連携【○】 ・美術部が地域文化祭参加および地域祭ポスター制作。科学部が地域の公民館にて科学教室を4月、9月、12月に3回実施【◎】 ・大学と連携した総合探究の活動の様子を公式SNSで公開【○】
	(3) 本校の特色を活発に広報等する。	(3) 「広報部」を中心に、広報渉外等を教員全体で運営していく。 ・ウェブページや公式SNSを活用し部活動の紹介や行事の紹介などを通して在校生保護者への広報活動も充実させる。 ・学校説明会等で使用する本校紹介プレゼンテーションや学校紹介ビデオ等をさらに魅力あるようにバージョンアップする。 ・各種団体主催の学校説明会に積極的に参加し、情報収集と丁寧な広報活動を行う。 ・ウェブやメールを通じて保護者への教育活動公開を図る。	(3) 「吹田東高校のWebページ(ホームページや公式SNS)をよく見る」の回答を維持または引き上げる。[保護者58.5%、生徒49.8%] ・中学校訪問、地域行事等での本校情報の発信を実施 ・公式SNSの更新を行事の大小にかかわらず1回以上行い、更新する。また、SNSを利用しない層に向けてもHPを更新する。	(3) 「吹田東高校のWebページ(ホームページや公式SNS)をよく見る」の回答について保護者は維持、生徒は増加。[保護者58.8%、生徒59.8%]【◎】 ・昨年に引き続き商業施設で開催される高校の書道展にて、本校紹介動画を上映。説明会に使用する学校紹介プレゼンテーション資料や部活動紹介動画等も更新し大型モニターなどで上映【○】 ・公式SNSやホームページの定期的な更新を行った【○】 ・保護者との対話会としてPTA座談会を新たに実施
5 人 材 育 成 へ の 取 組 み	(1) 経験年数の少ない教員の育成 (2) 経験豊かな教員の知識等を生かす教員研修の実施 (3) 働き方改革の推進	(1) 校内研修において、参加体験型の研修を中心に、今後直面するテーマを取り上げて、OJTを進める。 (2) GUTS(若手塾)等で、経験豊かな教員が研修講師を務める。公開授業等の実施。ミドルリーダー育成を図る。 (3) 校内組織等の見直しを行い、教員の働き方改革を進め、教職員同士の対話を深める時間や、生徒と向き合う時間を増やす。	(1) GUTS年間8回以上[8回] (2) ミドルリーダー等経験豊かな教員が、研修講師又は公開授業の実施などの機会を、年2回以上設定する。 (3) 時間外在校等時間の平均時間減、長時間勤務者の減少の維持に努める。[22.1時間、長時間勤務者17名] ・働き方改革のための対話型の教職員研修の実施を1回以上実施、満足度80%以上[100%]。	(1) GUTS 8回実施【○】 (2) ミドルリーダーによる公開授業を7回実施、研究協議2回実施【○】 (3) 月平均18.3h(R6 22.1h) 長時間勤務者延べ12名(R6 17名)【○】 ・学校教育自己診断などの配付文書をデジタル化 ・校務の効率化を図るためWeb会議システムの活用を推進(対話型、アンケートは未実施) ・対話型の研修は未実施【△】
6 の 適 正 管 理 個 人 情 報	(1) 個人情報の適正管理	(1) 個人情報の適正管理を行う。個人情報管理表を基に、当年度廃棄分の適正処置実施。各部屋の当年度管理責任者を確認、引き継ぎを文書で実施する。	(1) 個人情報保護研修1回実施[1回]。定期考査前に職員会議において個人情報管理の再確認を1回以上実施[1回] ・考査や小テストのデジタル採点導入時におけるチェックリストを使用した運用の徹底	(1) 個人情報の取扱いについて職員会議にて周知、確認【○】 ・各定期考査前に改めて確認実施【○】 ・デジタル採点のチェックリスト運用の徹底を継続【○】